

水がまちあらがると

各まちづくり交流室管内の
情報をお届けします

清水 まちづくり交流室

「地域の情報発信源」～麻生田町内の広報紙～

「地域住民のコミュニケーションと絆を深める」。広報紙の役割をそう話されるのは1町内自治会の川野会長。年に1回、全世帯に配布される「麻生田第1町内会報」と毎月回覧される「お知らせ!!」があります。お知らせでは月毎の予定や公民館活動等を写真も交えて紹介。地域の方からの「広報紙が回ってくるのを楽しみに待っています」との声が励みになります。会長は入学式や清掃活動等行事の場面で町内の方の写真を撮りプレゼントされています。とても喜ばれるのと同時にここでも「地域の絆」を深めています。



2町内の広報紙は「2町内かわら版」。全世帯に配布されるこの広報紙は現在、不定期発行です。まだ歴史は浅く、地域の皆さんに自治会の活動や町内、校区の行事案内をするのが主であり、写真掲載もありません。甲斐自治会長の目標は、まずは季刊発行にすること。麻生田2町内公民館で子どもたちと色々な活動ができないかと計画中です。その様子が将来、写真付で広報紙に載るのではないのでしょうか。これからの「2町内かわら版」の展開が楽しみです。

手書きの広報紙は3町内で毎月25日に発行される「いわくら」。10月で113号を迎えます。92号から担当されている清田広報部長が手書きを始められました。あたたかみがあると評判も良く、「隅々まで読んでいます」と言われると手振りが出来ないと話されます。「でも、しっかり読んでもらっていることがうれしいし、やりがいもある」とのこと。全世帯に配布するほか、町内の掲示板には実際の写真も掲示されます。「孫が写ると。分けてもらえんのか」との声には出来るだけお応えしていますと笑顔でおっしゃっていました。



みなさんもお自分の町内の広報紙をじっくり読んでみませんか。

北部 まちづくり交流室

～西里分館の活動を紹介します～

「放課後子ども教室で、紙ひこうきや望遠鏡を作りました。」

北部公民館 西里分館では、科学遊びや理科ものづくりを通して、科学する心や創造する心を育てるため、主に毎月第4木曜日に、放課後子ども教室で実演しています。6月25日には、紙ひこうき、8月30日には、手作り望遠鏡を作りました。子どもたちは、ものづくりや科学を好きになるだけでなく、いろいろなことに興味を持つようになっていきます。



「珠算・暗算教室や英語教室で楽しく学んでいます。」

西里分館の自主講座において、毎月2回、小学生の珠算・暗算教室や英語教室が行われています。算数や英語が気軽に学べるため、たいへん人気があり、多くの子どもたちが受講しています。算数と英語が好きなようになったという声が届いています。



まちづくり交流室 龍田

「ものづくりを生かし、まちづくりへ」

龍田地域では、毎年11月初めに「龍田地域市民の集い」(今年は10月31日、11月1日)が開催されます。地域にはものづくりでこの集いを支えるたくさんの方々がいらっしゃいます。今回は、昨年手作り作品を出品いただいた中からお二人をご紹介します。

弓削校区にお住まいの石原邦明さんは家具作りがとて上手です。12年程前、お孫さんの小学校入学のお祝いに製作した机がきっかけで、それ以降たくさんの家具を作り続け、椅子やテーブルから棚やタンスにいたるまで種類はさまざまで、その数は100点を超えるそうです。



武蔵校区にお住まいの町田美代子さんはパッチワークが、以前全国規模の創作大賞展で受賞したほどの腕前です。25年程前にデパートで開催された展示会でのパッチワークとの出会いがきっかけで、仕事や子育てと両立しながら作品をつくり続けてこられました。構想からデザイン、材料選びと、場所や使う人のことを考えながらこつこつと作られていくお二人の作品からは、技術の高さと併せて温かさが伝わり、地域の文化を支える力になっているのを感じました。



まちづくり交流室 植木

第39回 田原子どもみこし夏祭り開催

～田原校区の絆の原点がここに～

第39回田原子どもみこし夏祭りが、7月26日(日)に田原子ども会育成会(会長:林田 幸さん)主催により開催されました。

祭りが始まったきっかけを校区自治協議会の谷口会長にお尋ねしました。「40数年前頃から子どもたちの様子が変わった。かつては学年を問わず一緒に遊んでいたのが、同級生だけで行動するようになった。子どもは遊びを通じて社会性、地域とのつながり、先輩後輩の関係を学んできたと思う。そこで当時の大人たちが危機感を抱き、「祭り」を通じて子どもたちに色々なことを感じてもらうと始めたもの。特に、地域の木工さんも大いに賛同され、みこし制作を担ってくれました」

みこし祭りは、校区が4つの地区(富応、鞍掛、平原、豊岡)に分かれ、当日朝、田原小学校にみこしを持ち寄り、祭りの安全を祈願します。その後地元へ戻り、地区内を練り歩きながら再び小学校へ集結。道中、子どもみこしが来るのを待ち構えた地域の方々からお菓子をもらったり、みこしと共に練り歩く「お賽銭箱」にお賽銭を入れてもらったりします。

今年の夏祭りは台風12号の影響により、練り歩き後は小学校体育館での開催となりましたが、みこし合戦をはじめ、4地区対抗の競技(ラムネ早飲み、大縄跳びなど)に山坂達者な田原っ子は奮闘。町内自治会、田原青年部による出店もあり会場は熱気に溢れ、フィナーレは参加者全員による田原坂音頭で盛り上がりしました。

「子どもたちの『ひまわり』のような姿が会場いっぱい明るく元気に咲き誇っていました。田原小学校の先生方、地域の皆さまご支援ありがとうございました」と林田会長がお礼を述べられました。

「校区内の大人も子どもも皆、みこし祭りに関わっている。校区の絆の深さはその成果のひとつと思う」と谷口会長。



練り歩き



ラムネの早飲み



総踊り

まちづくり交流室は、地域コミュニティ活動の支援及び推進に関することや町内会・自治協議会などに関すること、また公民館に関することを業務としています。北区内は清水、北部、龍田、植木の4ヶ所にあります。